

手術終了を待つ患者家族への看護 —病棟看護師の役割について考える—

17階病棟

発表者○庄司 理紗

林 智子 前田夕佳里 齋藤 伊代
後藤加代子

はじめに

手術は、患者だけでなく家族にとっても人生で初めてかもしれない、非日常の大変な出来事である。そのため、手術待機中の家族へ十分な関わりが求められる。しかし、手術終了を待つ患者家族（以下、家族とする）への看護については記載された文献が少なく、家族が求める情報や病棟看護師が家族にどのような説明を行っているのかは明らかにされていない。よって、病棟看護師が家族に説明している内容と家族が求めている情報を明らかにし、両者を比較・分析することで、病棟看護師による、手術終了を待つ家族への説明における課題を見出すこととした。

I. 研究目的

手術終了を待つ家族が求める情報および病棟看護師が行っている説明の現状を把握する。現状把握の内容から、家族の求める情報と看護師の説明内容を比較・分析し、今後の課題について考える。

II. 研究方法

1. 対象：17北、16南、13南病棟の看護師62名（研究者、師長を除く）。上記病棟の消化器外科領域における、全身麻酔で手術を施行した家族44名（成人患者、予定手術に限る。但し、手術時間が短く手術侵襲も小さいと考えられる胆嚢摘出術・ヘルニア手術・虫垂炎手術を除く）。
2. 期間：平成25年2月～平成25年5月
3. 場所：17階病棟
4. 具体的な研究方法：阪本らの手術当日に待機した家族へのアンケート調査¹⁾を参考にしてアンケートを作成。
 - 1) 病棟看護師への質問紙法アンケート調査。
 - 2) 消化器外科手術を受ける患者の手術終了を待つ家族への質問紙法アンケート調査。各病棟へアンケートを配置し、病棟看護師より対象の

家族へアンケートを配布する形式とした。

5. 分析方法：単純統計処理

6. 倫理的配慮：病院倫理委員会に研究の目的・主旨・プライバシーの保護・研究以外に用いないことを説明し、審査を経て承諾を得た。対象者へ研究目的、自由意思であること、匿名性の遵守を文書に明記し、対象者自身で提出することをもって同意とみなした。

III. 結果

手術待機中の家族へ行う説明の項目について、看護師に対し、各項目について「説明の必要性」と「実際に説明しているか」の「実施状況」を明らかにした。また、家族に対し、各項目について「説明の必要性」と「実際に説明を受けたか」について質問した。結果について表1に示す（表1）。

1. 病棟看護師のアンケート結果：

62名のうち58名から回収、有効回答数58名（回収率93.5%、有効回答率93.5%）であった。どの程度「説明する必要があるか」という質問に対し、かなり必要、まあまあ必要と答えた人は、全質問項目の平均値86.6%であった。家族に説明を、ほとんど説明する、おおよそ説明する、と答えた人の割合は、全質問項目の平均値67.6%であった。

自由記載では、「思いや理解を確認しながら説明をしている」、「待機している家族の不安を増強させないように声かけに配慮している」などの意見が聞かれた。

2. 家族のアンケート結果：

44名のうち30名から回収、有効回答数29名（回収率68.2%、有効回答率65.9%）であった。家族は、「どの程度説明を受けたいと思いますか」という質問に対し、かなり必要、まあまあ必要と答えた人の割合は、全質問項目の平均値79.7%であった。

自由記載では、「手術が異常なく無事終わったかどうかとても心配なので、終わった時点で

知らせてもらえると気持ち的にありがたい」、「長い時間の待機だと最初はゆとりがあるが、予定時間の1時間くらい前からソワソワ感じる。そのころに、順調に進みあと少しとの声かけがあるとうれしい」など、時間経過や終了予定時間に関する意見が多く聞かれた。

3. 看護師と家族のアンケート結果の比較：

説明の必要性があると答えた看護師の割合、家族の割合、家族が実際に説明を受けた割合について図1に示す（図1）。

IV. 考察

看護師が説明の必要性があると答えた項目と家族が説明を望む項目については、概ねずれがなく一致していた。

「手術終了予定時間について」「手術が終わった時点でのお知らせ」の項目については看護師・家族の両者ともに説明が必要と答えた。野村²⁾らは手術を待つ家族の時間感覚について「手術時間の長さは、心理的苦痛のため現実よりも長く認識される傾向にある」と述べており、家族アンケートの自由記載の内容にも時間に関する意見が多かった。このことから、家族は終了時間など、時間について関心があると言える。したがって、病棟看護師は、術中に家族へ手術終了予定時間など時間に関する情報を伝えることや、手術終了予定時間の前後には必ず訪室し声をかけることが不安の軽減という点において重要であると考えられる。

「手術中の患者の状態について」「患者が病室に帰って来た時の状態について」の項目については、看護師・家族ともに説明が必要と答えたが、実際に説明されている割合は低かった。これは、当院では医師が手術後に家族へ説明を行っているためだと推察される。そのため、看護師は医師がどのような説明を行ったか、家族の反応を含め把握していく必要があると考える。

また、効果的に情報提供をするためには、家族が求める情報を把握し、適した情報を提供することが重要であると考えられる。岡堂³⁾らが家族への情報の提供について「情報は多ければいいというものではなく、詳細なデータを示したりすることはかえって家族を不安にしまう場合もある」と述べていることから、多くの情報がある中で個々の家族が求めている情報を探り、必要な情報提供をしていくことが重要だと考えられる。家族が求める情報を知るためには、病棟看護師は、術前から家族と関わる事が出来るという特性を活かし、家族を含めた術前オリエンテーションを行うなど、手術前から家族との関係性を築くことでより家族が求める情報を把握できるのではないかと考える。また、必

要な情報を家族に分かりやすく伝えることも重要であり、家族が提供された情報をどのように理解しているか確かめることも情報提供において必要であると考えられる。

V. 結論

手術終了を待つ患者家族が求める情報と病棟看護師が必要と思う情報は概ね一致していた。

看護師は家族に対して時間に関する情報提供を意識的に行うことが求められている。また、家族が提供された情報をどのように理解しているか把握することも必要である。

まとめ

今回手術終了を待つ家族が求める情報について調査を行い、情報提供における現状を把握することができた。私たち看護師は、家族が安心して待機できるような環境を整える役割を担っている。私たちが行う看護は対象である患者が中心となって展開していくものであるが、看護を展開していく過程の中で家族は重要な存在であり、患者にとっても家族はとても大切な存在であると言える。その家族が不安を抱えて待機時間を過ごしているということをまず看護師は理解することが必要であり、看護師として家族へ必要な情報提供をすることで不安を軽減することができるようにしていきたいと考える。

本研究での結果や考察を踏まえ、今後の看護に役立てていくことができるよう努めていきたい。

引用文献

- 1) 阪本智子他：手術患者の家族が望む情報—手術当日に待機した家族へのアンケート調査より—, OPE nursing, vol.17, 114-118, 2002
- 2) 野村美香他：手術を待つ家族の時間感覚と影響因子について, 第24回日本看護学会集録(成人看護I), 30-32, 1993
- 3) 岡堂哲雄他：入院患者の心理と看護, 初版, 第17刷, 233-235, 1995, 中央法規出版, 2001

参考文献

- 1) 石川渉子他：手術中待機している患者家族への看護介入～病棟看護師による術中訪問を行って～, 西尾市民病院紀要, 51-55, 2009
- 2) 小栗若菜他：手術終了を待つ患者家族に対する看護の現状と課題；系統的文献レビューをとおして, 臨牀看護, 32(2), 282-285, 2006
- 3) 武田明子他：手術終了を待つ家族への援助—情報提供の効果およびその内容の検討—, 第37回日本看護学会集録(成人看護I), 317-319, 2006

図1. 看護師と患者家族アンケートの比較

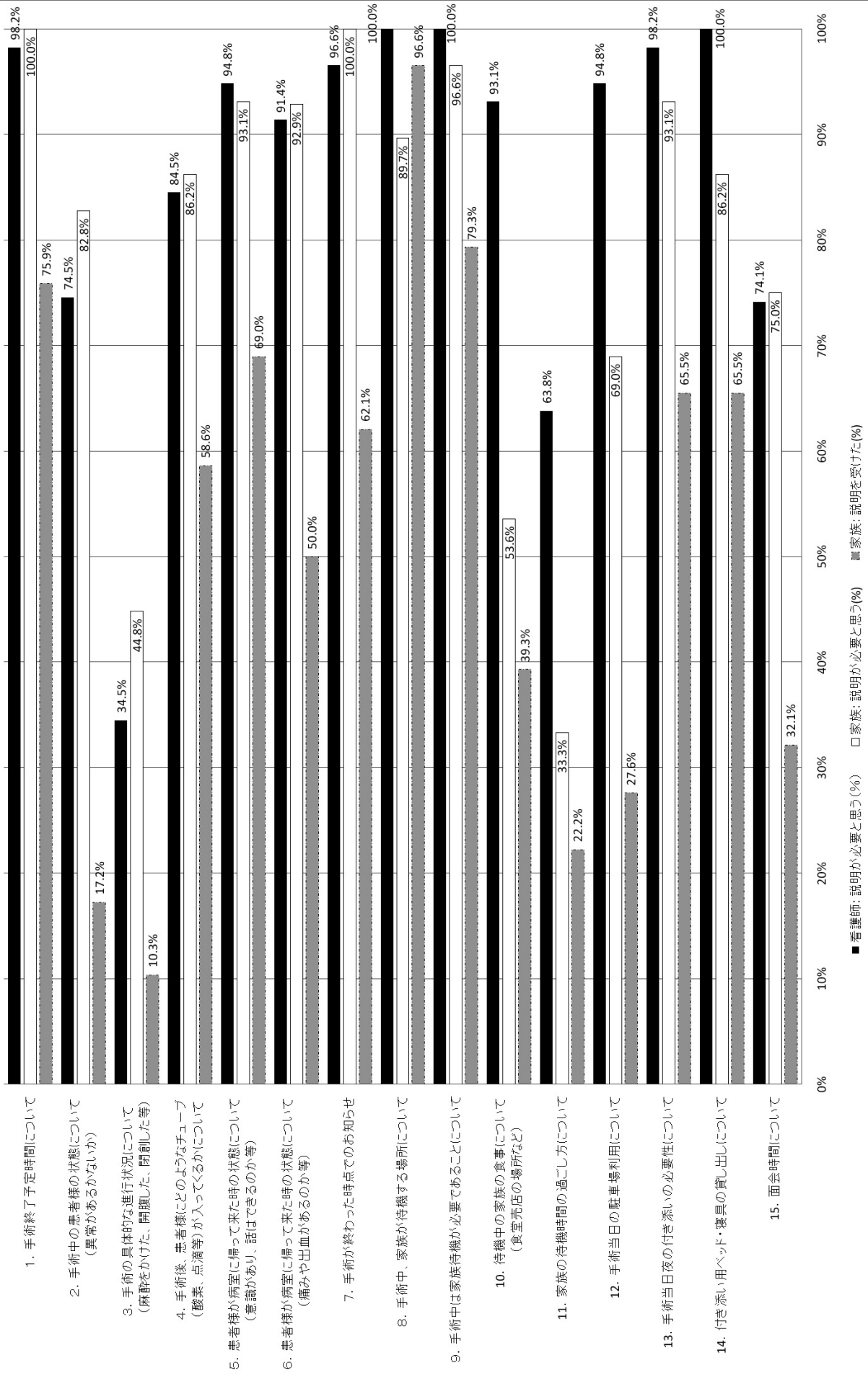


表1. アンケート結果

質問	看護師						家族									
	どの程度「説明する必要がある」と思うか			実際に家族へどの程度説明しているか			どの程度「説明を受けたい」と思うか			実際に看護師から説明を受けたか						
	1かなり必要 2まあまあ必要	3あまり必要ない 4必要ない	1ほとんど説明する 2おおよそ説明する	3ほとんど説明する 4ほとんど説明しない	1かなり必要 2まあまあ必要	3あまり必要ない 4必要ない	説明を受けた	説明を受けなかった	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)				
	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)	n(人)	割合(%)				
1. 手術終了予定時間について	56	98.2	1	1.8	49	87.5	7	12.5	29	100.0	0	0.0	22	75.9	7	24.1
2. 手術中の患者様の状態について (異常があるかないか)	41	74.5	14	25.5	16	29.1	39	70.9	24	82.8	5	17.2	5	17.2	24	82.8
3. 手術の具体的な進行状況について (麻酔をかけた、開腹した、閉創した等)	20	34.5	38	65.5	2	3.6	54	96.4	13	44.8	16	55.2	3	10.3	26	89.7
4. 手術後、患者様にどのようなチューブ (酸素、点滴等)が入ってくるかについて	49	84.5	9	15.5	38	66.7	19	33.3	25	86.2	4	13.8	17	58.6	12	41.4
5. 患者様が病室に帰ってきた時の状態について (意識があり、話ができるのが等)	55	94.8	3	5.2	48	84.2	9	15.8	27	93.1	2	6.9	20	69.0	9	31.0
6. 患者様が病室に帰ってきた時の症状について (痛みや出血があるのが等)	53	91.4	5	8.6	43	75.4	14	24.6	26	92.9	2	7.1	14	50.0	14	50.0
7. 手術が終わった時点でのお知らせ	56	96.6	2	3.4	48	84.2	9	15.8	29	100.0	0	0.0	18	62.1	11	37.9
8. 手術中、家族が待機する場所について	58	100.0	0	0.0	56	98.2	1	1.8	26	89.7	3	10.3	28	96.6	1	3.4
9. 手術中は家族待機が必要であることについて	58	100.0	0	0.0	57	100.0	0	0.0	28	96.6	1	3.4	23	79.3	6	20.7
10. 待機中の家族の食事について (食堂売店の場所等)	54	93.1	4	6.9	41	71.9	16	28.1	15	53.6	13	46.4	11	39.3	17	60.7
11. 家族の待機時間の過ごし方について	37	63.8	21	36.2	22	38.6	35	61.4	9	33.3	18	66.7	6	22.2	21	77.8
12. 手術当日の駐車場利用について	55	94.8	3	5.2	32	56.1	25	43.9	20	69.0	9	31.0	8	27.6	21	72.4
13. 手術当日夜の付き添いの必要性について	56	98.2	1	1.8	50	89.3	6	10.7	27	93.1	2	6.9	19	65.5	10	34.5
14. 付き添い用ベッド・寝具の貸し出しについて	57	100.0	0	0.0	50	89.3	6	10.7	25	86.2	4	13.8	19	65.5	10	34.5
15. 面会時間について	43	74.1	15	25.9	23	40.4	34	59.6	21	75.0	7	25.0	9	32.1	19	67.9
平均		86.6		13.4		67.6		32.4		79.7		20.3		51.4		48.6

手術終了を待つ患者家族への看護 —病棟看護師の役割について考える—

17階病棟

○庄司理紗 林智子 前田夕佳里 齋藤伊代
後藤加代子

I 研究目的

手術終了を待つ家族が求める情報および病棟看護師が行っている説明の現状を把握する。

現状把握の内容から、家族の求める情報と看護師の説明内容を比較・分析し、今後の課題について考える。

II 研究方法

・対象

17北、16南、13南病棟の看護師62名
(研究者、師長を除く)

上記病棟の消化器外科領域における、全身麻酔で手術を施行した患者家族44名
(成人患者、予定手術に限る。但し、手術時間が短く手術侵襲も小さいと考えられる胆嚢摘出術・ヘルニア手術・虫垂炎手術を除く)

II 研究方法

・方法

阪本らの手術当日に待機した家族へのアンケート調査を参考にしてアンケートを作成。

病棟看護師への質問紙法アンケート調査。
消化器外科手術を受ける患者の手術終了を待つ家族への質問紙法アンケート調査。

III 結果

(病棟看護師のアンケート結果)

62名のうち58名から回収

有効回答数58名

(回収率93.5%、有効回答率93.5%)

看護師が「説明の必要性」について「かなり必要」「まあまあ必要」と答えた割合は全質問項目平均値86.6%

III 結果

(病棟看護師のアンケート結果)

思いや理解を確認しながら説明をしている

待機している家族の不安を増強させないよう声かけに配慮している



Ⅲ 結果 (家族のアンケート結果)

44名のうち30名から回収
有効回答数29名
(回収率68.2%、有効回答率65.9%)

家族が「説明の必要性」について
「かなり必要」「まあまあ必要」と答えた割合は全項目平均値79.7%

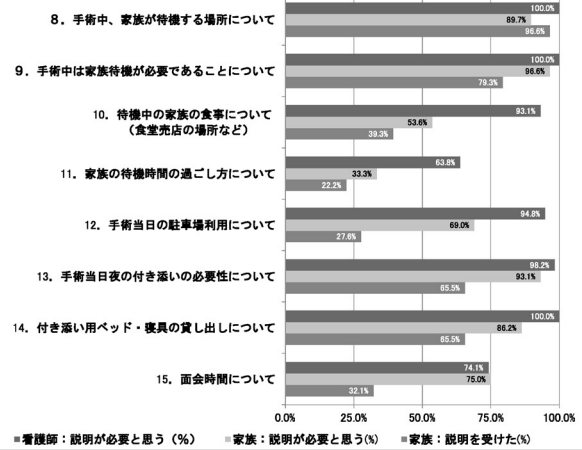
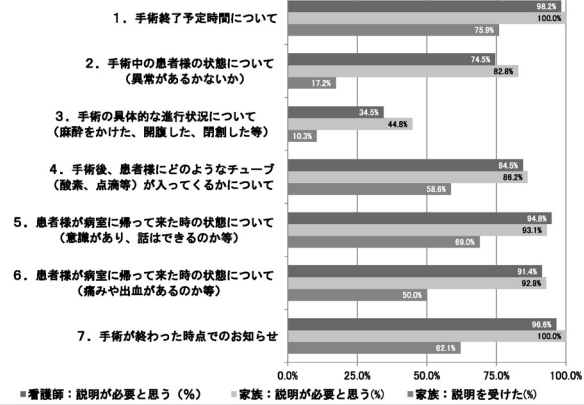
Ⅲ 結果 (家族のアンケート結果)

手術が異常なく無事終わったかどうかとても心配なので、終わった時点で知らせてもらえると気持ち的にありがたい

長い時間の待機だと最初はゆとりがあるが、予定時間の1時間くらい前からソワソワ感じる。そのころに、順調に進みあと少しとの声かけがあるとうれしい



Ⅲ 結果 (看護師と家族のアンケート結果の比較)



Ⅳ 考察

家族は時間について関心がある

手術終了予定時間など時間に関する情報を伝える

手術終了予定時間の前後には必ず訪室して声をかける

Ⅳ 考察

術中の患者の状態について、家族・看護師が必要だと思う割合は高いが、実際に説明された割合は低かった



医師が手術終了後、家族に説明

どのような説明であったか、家族の反応を含め把握していく



IV 考察

効果的な情報提供をするためには・・・

家族が求める情報を把握し、適した情報を提供することが重要である。

多くの情報がある中で、個々の家族が求めている情報を探り、必要な情報提供をしていくことが重要だと考えられる。

IV 考察

病棟看護師にできること・・・

家族を含めた術前オリエンテーションを行うなど、手術前から家族との関係性を築く。

さらに、家族が提供された情報を理解しているかどうかを確かめることも情報提供において必要であると考えられる。

まとめ

- 手術終了を待つ患者家族が求める情報と病棟看護師が必要と思う情報は概ね一致していた。
- 看護師は家族に対して、手術終了時間などの時間に関する情報提供を意識的に行うことが求められていると考えられる。

この研究をまとめるにあたり御指導、御協力をいただきました皆様に深く感謝いたします。